

島根リハビリテーション学院で卒業式

島根リハビリテーション学院の卒業式が三月十日、カールチャープラザ仁多で開催されました。

理学療法学科三十人、作業療法学科三十一人の卒業生は、四年間の思い出を胸に、全国の医療、福祉現場の担い手を目指し巣立ちました。



谷河学院長から卒業証書を受ける卒業生



多くの人から祝福を受ける卒業生

九回目となる卒業式には、近隣の病院関係者や多くの来賓、保護者や在校生など約四百人が出席。

式では、谷河精規学院長が一人ひとりに卒業証書を手渡し、「優れた医療人になるに

は、周りの人と協力していくコミュニケーションが大切。四年間で磨いた能力を今後に生かしてほしい」と式辞が述べられました。

また、理事長の井上勝博町長が「学院で学んだ知識や教訓、そして第二のふるさと、ここ奥出雲での経験を生かし、医療技術のスペシャリストとして活躍してほしい」と花向けの言葉を贈りました。

これに対し、卒業生を代表して鳥取県出身の佐崎智子さんが「先生や仲間たち、温かく見守っていただいた地域の方々に感謝したい。四年間の思い出を胸に、セラピストと

中学生に世界平和を呼びかける 池田香代子さんが講演



世界平和を呼びかける池田香代子さん

ベストセラーとなった「世界がもし一〇〇人の村だったら」の再話を手がけた作家、池田香代子さんの講演会が二月十五日、横田中学校で開かれました。

池田さんは「一〇〇人村」の執筆やそれに伴う調査、研究で培った広い視点で、環境や平和、教育の問題などについて、生徒たちに語りかけました。

その中で、日本が海外からの輸入に頼り、多くの国によって支えられていることを述べた上で「日本が輸入している食べ物、一見自分たちの生活とかけ離れているが、そ

れが原因で、途上国の貧困や戦争の火種を生んでいる。また輸入した約四割を、日本人は捨てている現状がある」と話され、生徒達は真剣な表情で話しに耳を傾けていました。

池田さんは、人間は「無力ではなく微力」と繰り返し、その微力がどんどん大きくなってほしいと話されました。

生徒たちは、様々な世界の現状を知り、自分たちの恵まれた環境に感謝するとともに、今まで意識しなかった様々な問題に対して意識を持つことができました。

しての道を歩みたい」と感謝の言葉で応えました。

式の後、開校当時から交流を続けている三成保育所の五歳児十五人が、お兄さん、お姉さんの旅立ちを祝福し、元気よく太鼓を披露しました。

島根デザイン専門学校卒業式

三月十六日には、島根デザイン専門学校でも卒業式があり、デジタルデザイン科四名、モノ制作科一名、デジタルメディア科一名、研究科一名が学舎を後にしました。



卒業式の様子

卒業生は、この学校で学んだ知識や技術を活かして、様々な分野で活躍します。

尾原ダム完成後の地域を考える

建設工事が最終段階を迎える、尾原ダム周辺の地域づくりに関して話し合うシンポジウムが二月二十日、松江市のくにびきメッセで開催されました。

ダム建設地や流域の住民約二百人が、観光振興や環境保護などダム完成後の展望について考えました。



地域振興について意見交換を行なうパネリスト

シンポジウムは、島根大学教育学部をはじめ、関係機関で組織する実行委員会が企画し、基調講演や流域住民による

基調講演では、NPO法人斐伊川くらぶ（松江市）の小谷武理事長が「恩恵を受ける下流の住民として、移転者の方に感謝し、流域全体で一緒に守らなければ、地域の発展はない」と呼びかけました。

続いて、住民が地域づくりの現状などを語る第一部では、布勢地区尾原ダム活性化対策協議会の中林英清会長が、地域資源を活かしたアグリビジョン、地区内のヤマタノオコチ伝説地の整備、神楽による振興の取り組みが報告されました。

音楽を通して四園交流 「トトロの楽校」発表会

町内四園の保育所園児三・四・五歳児約百五十人が一同に集まり、音楽を通して交流を深める発表会が一月二十日、町民体育館で開催されました。

この交流会は、子供たちに表現することの楽しさを伝え、園児が互いに交流することを目的に、年一回開催されています。



四園三歳児70人によるミュージックベル演奏

島根県公民館研究集会 公民館が主体となって地域力アップ

「もっと、しまねの公民館をおもしろく！」をテーマとした、島根県公民館研究集会（東部会場）が二月二十六日、カルチャープラザ仁多で開催されました。

会場には、県東部の公民館職員や社会教育関係者約三百人が集まり、地域における公民館活動の役割を探りました。午前中に行われた基調講演では、元山陰中央新報社の論説員で、モデル公民館選定委

員会座長の松本英史さんが、石見地区の公民館の様々な取り組みを紹介し、午後からは三会場に分かれて、「子ども・先人」「定住」をテーマとした分科会が行われました。

参加者は、モデル公民館の先駆的な事例を聴くとともに、お互いが抱える課題などについて情報交換を行い、新たな活動や可能性を導き出す貴重な機会となりました。

